

東舞子

2016/10/1 (10月号)

神戸市立東舞子小学校

平成28年度学校だより

<http://www.kobe-c.ed.jp/hmi-es>

前向きな心のあり方を育てるには

ついこの間まで、厳しい残暑が続いていましたが、「暑さ寒さも彼岸まで」の言葉通り、秋分の日を過ぎる頃から、肌で感じられるほど、めっきりと秋めいてきました。実りの秋とも称されるように、学校においても、2学期は校外学習、自然学校、修学旅行、音楽会等々の行事とともに、日々の学習やスポーツ活動などで子供たちが力を発揮し、心も体も一段と成長する時季でもあります。

ところで、先日、ある学校の4年生の保護者から、このような内容の相談がありました。息子がテレビばかり見て、一向に宿題をしないので、口うるさく「宿題は終わっているの？ まだなら、テレビなんて見ていないで、すぐにやりなさいよ！」と言ってしまうのですが…、何も言わないでも、宿題を自分から進んでさせる良い方法はないのでしょうかというものでした。その話を聞いたとき、私は自分が小学生だったときのことを思い出しました。夏休みも終わりに近づいた八月の下旬、友達とはとくに夏休みの課題を仕上げ、2学期の始業式を待つばかりでしたが、私はというと、図画工作の作品や読書感想文といった課題を手付かずのまま残していました。両親から宿題のことで口うるさく言われれば言われるほど、やる気が起きませんでした。結局、始業式の前日に工作は父親に手伝ってもらい、何とか仕上げ、読書感想文は眠い目を擦りながら、前日の夜中によく完成しました。提出日には間に合ったものの、納得のいく作品とはほど遠いものでした。

「今からやろう」と思っていたことを周りから指摘されると、意欲が低下したり、達成感が得られなかったりというような心境を経験した人は少なくないのではないのでしょうか。一方で、周囲からの声かけを「おせっかい」と捉えたままでは、やるべきことにいやいや取り組まざるを得なくなるでしょう。また、指摘した相手に不満を抱いたり、うまくいかないことを相手のせいにしたりすることにもつながりかねません。同じ「やらなければならないこと」であるのなら、もっとポジティブに取り組みたいものです。子供の宿題に限らず、大人になってからの仕事にしても、「与えられて仕方なく、いやいや取り組んだ仕事」と「自ら目標を達成する喜びを持って取り組んだ仕事」や「相手に勇気や希望をもたらすつもりで取り組んだ仕事」とでは、出来栄も達成感も当然ながら異なってきます。また、たとえ指摘を受けたとしても「自分のことを気にかけてくれてありがとう」という前向きな捉え方ができたなら、やる気を失うことなく、相手への感謝の気持ちに変えることができます。

このように、直面する課題に対して受け身ではなく、自らが主体的に取り組めるよう、前向きに捉え直していく、そのような考え方ができれば、人間関係に潤いを与え、自分自身も心豊かな人生を形成できるのではないのでしょうか。参考になるかどうかわかりませんが、以前読んだ本の中に「子供をダメにする家庭の習慣」という項目がありましたのでご紹介します。①朝、親が起こさないと起きてこない②朝食を食べないで登校させることがある③テレビ観賞やゲームなど、1日2時間以上している④子供が夜遅くまで勉強するのは好ましいことと考えている⑤勉強を理由に家の手伝いや掃除をさせない⑥宿題をだらだらするなど、時間の管理は子供任せで無頓着である⑦学校に行く準備は、当日の朝起きてから慌ててしている⑧子供が話しかけてきたとき、つい「後で」と言ってしまうことがある⑨子供が話しかけてきたとき、「聞く」よりも「話し」てしまう⑩テレビに夢中になって、子供の顔を見て会話することが少ない⑪週に一度も子供と一緒に夕食をとる機会がない⑫子供や家族について夢や希望を一緒に話し合ったことがない⑬子育てに、つい「正解」を求めて思い悩んでしまうことがある⑭親の仕事内容や社会の仕組みなど、子供に話す必要はない⑮子供に対して「誉める」ことより「叱る」ことのほうが多い…子育ては方程式のようにはいきませんが、心のありようで前向きにもなれば、後ろ向きにもなるということではないのでしょうか。

校長 梅鉢 泰博